

授業実践

「地歴・社会科教育法」における 授業の基本について（その4）

The Practice of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History.

小栗正彦 (Masahiko OGURI)

This paper will demonstrate a clear and concise method of instruction for historical period between the Meiji and Taisyo eras. Specifically, it will focus on the development of Japanese capitalism through three points: financiers' action, the expansion of the labor movement. And the policies of the Diet (including three wars: the Sino-Japanese War, The Russo-Japanese War, and the First World War). The era will be explored through literature, lectures. And graphic representation. In addition, the issue of student reflection on teaching practices will also be addressed.

承前

前号まで、「地歴・社会科教育法」に関する授業実践について書いてきた。

そこでの大きな問題点は歴史を専門に学ぶ学科がない大学で、学生たちにどのようにしたら教壇に立って「地歴・社会」科を教えられる力をつけることができるか、ということであった。

昨年度は受講者が多く、一人ひとりの学生に対して行き届いた教壇実習の指導ができなかったが、本年は15名であったため、学生たちが行った授業に対する指導がかなり詳しくできたように思う（例えば昨年まではなかなか触れられなかった指導案の書き方についても詳しい注意ができた）。

学生に与えた授業テーマは昨年と同じものなので（本紙第3号を参照）、本号では「近代」（明治～大正年間）に関する授業に焦点をしぼって書いてみる。

1. 「近現代史」の授業はむつかしい。

いま多くの学校では高校3年生の3学期はほとんど授業が行われていないのではないかと。したがって、日本史の授業などでは明治時代を終えるのがやっとなではないか。場合によっては江戸時代までというところもあるらしい。

だから、この「地歴・社会科教育法」の講義でも学生の勉強のレベルが急に下がった。授業のレベルが下がると、必ず細かいことにこだわって、全体の歴史の流れがバラバラになりはじめる。

例えば、明治維新が行われて人々にかかる税金が江戸時代の年貢と比べて軽くなったの

かどうか、という最も大切なことには触れずに、教科書や副教材に図表となって掲載された行政改革表の一つひとつを説明しはじめる。日清戦争や日露戦争の戦争の経過を詳しく説明するのに比して、それらの戦争が資本主義経済や労働者の上にもどのような影響を与えたのか、あるいは経済上におこった変化がどのように時の議会にカゲを落としているのか、がまったく個々の出来事として語られる。それ故に授業を受けている生徒たちはあらゆる歴史的事項を「暗記」せざるを得なくなる。これでは生徒たちに歴史に興味を持たせることはできない。

それではどうしたらよいか。次に「明治～大正」にかけてを、高校での授業でどのようにしたらわかりやすく、生徒たちの頭に定着させることができるかを書いてみたい。

2. 3回の戦争を中心に。

日本は明治～大正年間に3度の戦争をした。その3度の戦争を軸にして明治～大正を4分割する。さらにそれぞれの時代を、資本家の動き、労働者の動き、議会の動きの3つの分野からみるようにする。それを表にしてみると別紙1のようになる。つまり3回の戦争によって輪切りにされた明治～大正年間を資本家の動き、労働者の動き、議会の動きの3分野から見て、明治～大正の約60年間の歴史を12のワク（A～L）に分けて、そのタテ、ヨコの関係を考えながら学習すればわかりやすくないか。別紙1を参照しながら以下のことを参考にして時代を「読んで」いこう。

- A (1868-1894) …資本主義の原始的蓄積の時期（資本主義が発展するための基礎である資本、労働力、市場が用意された時期）
資本→地租改正、秩禄処分、松方デフレなどの諸政策によって準備された。ただし江戸時代の重税により個人的に資本を準備しづらかったわが国は官営工場による経営が行われた。
労働力→地租改正、松方デフレなどの諸政策によって準備された。
市場→国内的には廃藩置県（江戸時代は藩内にしか売れなかった商品を全国に売買できるようになった）、国外的には日朝修好条規などによって朝鮮に市場を求めるようになった。
- B (1868-1894) …労働者の出現はなく、このワクの特筆すべき動きは甲府兩宮製糸工女のストや高島炭鉱事件に見られるような、組織的な労働運動ではなく、暴発的な形をとった労働運動であった。さらに、政府に対する運動という観点でいえば「自由民権運動」の歴史がこのワクに入るか。
- C (1868-1894) …初めての政党の誕生（民党による激しい政府追求）
- D (1895-1904) …第1次産業革命（軽工業部門—1897年は資本主義元年）
独占資本の誕生、寄生地主の誕生→経済恐慌
- E (1895-1904) …労働組合の結成（資本主義の発展→労働者の増大→組織化）

労働者のための社会主義政党の出現（社会民主党の結成）

F（1895-1904）…最初の政党内閣の誕生（隈板内閣）

資本家のための政党の出現（立憲政友会の結成）

G（1905-1914）…第2次産業革命（重工業部門）

独占資本の発展、寄生地主の発展→戦後恐慌

H（1905-1914）…最初の「合法的」社会主義政党の誕生（日本社会党）

日比谷焼打事件、大逆事件、工場法の制定（ただし施行は1916年）

I（1905-1914）…第1次護憲運動、桂園時代

J（1919-1927）…資本主義の空前の繁栄、成金の出現、資本の輸出

独占資本の完成、寄生地主の完成→戦後恐慌

K（1919-1927）…労働者・農民・学生・女性・被差別部落などあらゆる階層からの社会

運動→米騒動、最初のメーデー→『日本改造法案大綱』

L（1919-1927）…最初の「本格的」政党内閣の誕生（原敬内閣）、第2次護憲運動→護

憲三派連立内閣（加藤高明）、ロシア革命（→シベリア出兵）

以上を例えばタテにみると（A-D-G-J）、

①資本主義の原始的蓄積の時期

↓

②第1次産業革命（軽工業部門）、独占資本の誕生、寄生地主の誕生

↓

③第2次産業革命（重工業部門）、独占資本の発展、寄生地主の発展

↓

④資本主義の空前の繁栄、独占資本の完成、寄生地主の完成

となって、非常にわかりやすい時代となる。この大ワクを頭に描いた後に、今度はさらに細かいことを学習していけば、歴史の大きな流れが読める。

次はヨコに見ていく。資本主義の発達がなされると、当然のことだが、工場がいくつか出来てきて労働者も数を増す。そこで初めて労働組合が生まれるし、労働者のための政党も誕生する。それに対応して、資本家の利益代弁者としての政党も生まれてくる。これがD-E-Fに相当する部分のこととなる。

さらに第2次産業革命が進み、最初の「合法的な」社会主義政党が生まれるようになると政府も黙って見ているわけにはいかなくなり、弾圧し始める。これが大逆事件となった。以上の動きがG-H-Iの社会情勢となろう。第1次世界大戦によって「空前の繁栄」がもたらされれば、資本主義の矛盾はさらに高まり、Kのワクに見られるように、「あらゆる階層からの社会運動」となってあらわれる。

3. 歴史は大きな流れをつかまないとわからない。

本学で私の「地歴・社会科教育法」を履修している学生の大きな特徴は、「日本史」などの教科を最後に勉強したのは中学2年生の時だ、という。つまり彼らは中学2年生の時からまったく日本史に触れることなく大学に入学することができるわけである（高校では「地歴」は「世界史AまたはB」が必修だったから）。したがって本格的な「歴史学」の勉強をしていないのに、本学の「現代社会学部」で学べば「高校地歴及び公民科」と「中学社会科」の免許状が取得できてしまう。

そんな学生たちが「教科教育法」の授業で一つの課題を与えられて歴史の授業をやろうとする時によく犯す間違いは、一つの歴史的事項を歴史の大きな流れの中でつかまえることができずに、歴史用語辞典をいくつか寄せ集めた、単なる歴史的語句の説明だけに終止することである。さらに戦争などのテーマを教える段では、「誰々が誰々を嫌いだったので戦争になった」というような説明に終わってしまうのである。このような説明では、生徒たちはバラバラの、細切れの歴史的用語をただ闇雲に暗記せざるを得ない、ということになってしまい、膨大な暗記量のために学ぶ意欲を失ってしまうだろう。

こうしたことはもし歴史学科のある大学で学んでいる学生にはまずおこらないのではあるまいか。専門学科のない大学で教職課程を学ぶ学生たちには、このような初歩的なことから一つずつ教えていかなければならないのである。

4. 学生たちへの感想文について（資料2, 3）。

前にも書いたが、私はこの「教科教育法」の授業で、授業が終わると必ず学生一人ひとりに友達が行った授業に関して「感想文」を書かせることにしている。そして、次の授業までの間にそれを読み、学生たちに授業での注意とともにプリントにして渡すことにしている。ここに、2人の学生のそれを資料として添える（ただし文中の名前はアルファベットに置き換えてある）。

学生たちが毎時間書く感想文は授業の最初と、30時間後の講義終了間近のものとは格段に違ってくる。学生たちの授業に対する努力の成果として、非常に楽しみなものである。

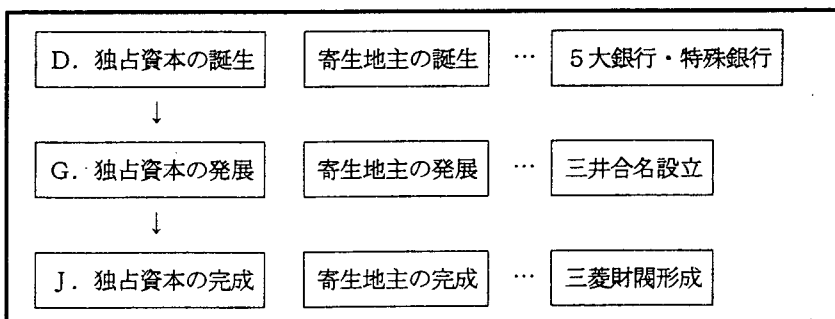
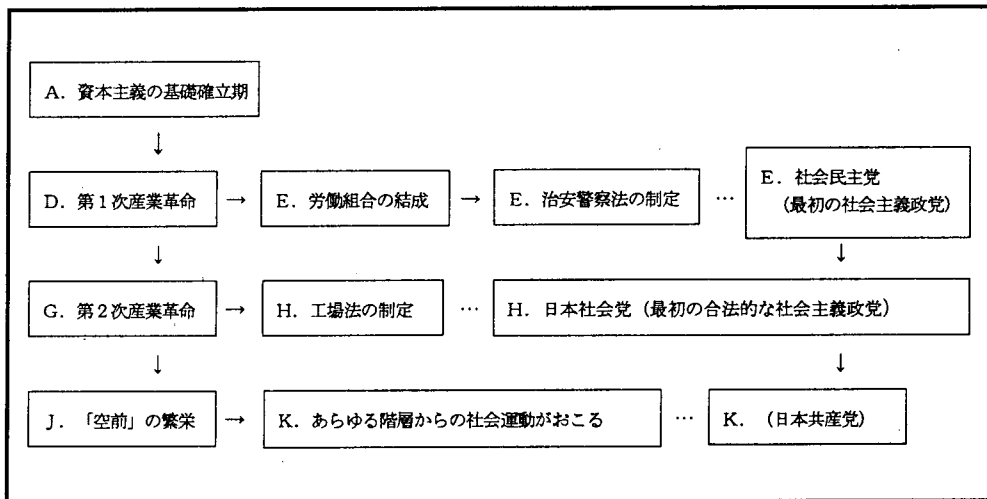
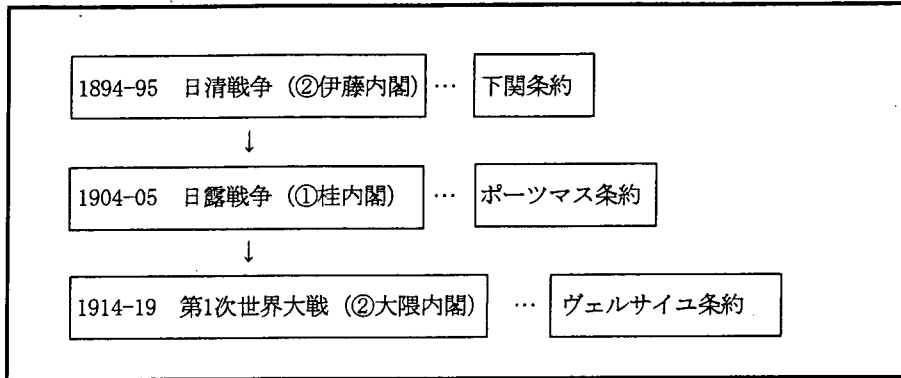
明治～大正の歴史概観

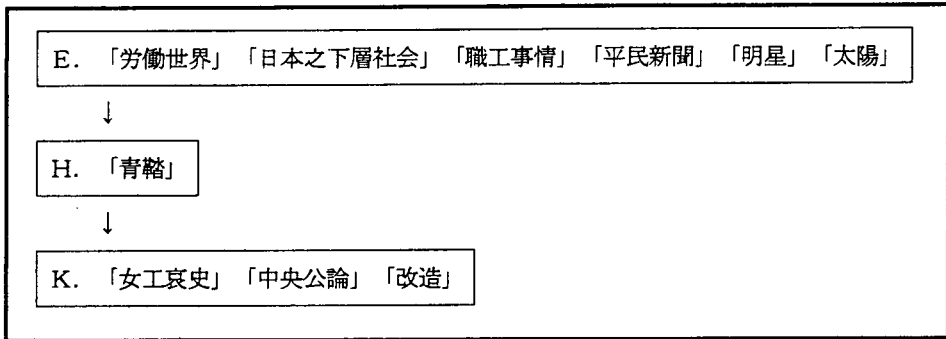
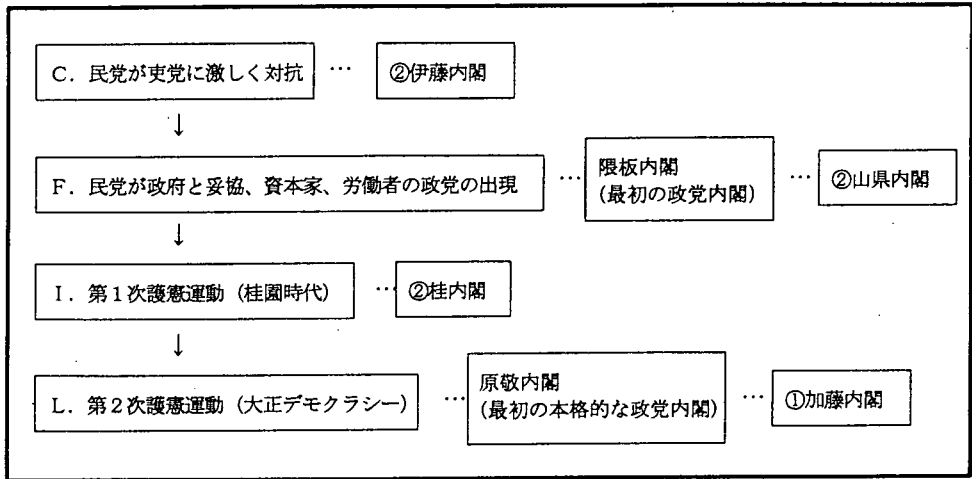
| 資本主義の発達 | 労働運動 | 議会の動き |
|---|--|--|
| <p>A</p> <p><u>資本主義の基礎が確立した</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 資本-地租改正・秩禄処分・松方デフレ 国立銀行条例→日本銀行 労働力-地租改正・松方デフレ など 市場 国内-原産産品 国外-日朝條好条規など 各種の官営工場 大阪紡績会社 1882 東海道線全通 1889 (官営<民営) 最初の経済恐慌 1890、シマノ鉄道起工 1891 | <p>B</p> <p><u>(自由民権運動)</u></p> <p>甲府雨宮製糸工女社 (最初的女子労働者によるストライキ)</p> <p>高島炭鉱事件 (三菱 三宅實頼「日本人」紙上で訴える)</p> <p>大阪天満紡績会社工女社</p> <p>「万朝報」(1892 黒岩涙香…幸徳、堺、内村)</p> | <p>C</p> <p><u>民党が政府の軍事費増強案に激しく抵抗</u></p> <p>民党 (自由党・進歩党) は「経費節減 民力休養」をスローガンに政府を激しく追求→これに対して政府は超然主義で対抗</p> <ul style="list-style-type: none"> ①山県-第1帝国国会 ①松方-海相樺山資紀の蛮勇演説・内相品川弥二郎の選挙干渉 →軍備拡張・租税増徴の助勢 ②伊藤-日英通商航海条約 (治外法権の拡大) 1894→日清戦争へ |
| 1894-95 日清戦争 (下関条約…②伊藤、陸奥) | | |
| <p>D</p> <p><u>第1次産業革命 (軽工業部門)</u></p> <p>(国産綿糸の生産高>輸入綿糸)</p> <p>綿糸輸出高>輸入高 1897</p> <p>力織機の発明 1897</p> <p>器械製糸生産高>座繰製糸 1894</p> <p>貨幣法 (金本位制の確立) 1897</p> <p>八幡製鉄所の設立 1897</p> <p>独占資本の誕生 (5大銀行・特殊銀行の開設)</p> <p>寄生地主の誕生</p> <p>経済恐慌</p> <p>「金色夜叉」</p> <p>1897年は資本主義元年!</p> | <p>E</p> <p>資本主義の発展→労働者の増大→<u>労働組合の結成</u></p> <p>職工義友会→労働組合期成会→鉄工組合・日鉄矯正会 (「労働世界」片山潜) 1897</p> <p>社会主義研究会 (研究)→社会主義協会 (啓蒙)</p> <p>最初の社会主義政党誕生 (社会民主党)</p> <p>足尾銅山鉱毒事件で田中正造直訴</p> <p>治安警察法 1900</p> <p>「日本之下層社会」(1899 横山源之助)</p> <p>「平民新聞」(1903 幸徳、堺、内村)</p> <p>「職工事情」(1903 農商務省)</p> <p>「太陽」(1895 総合雑誌 高山樗牛ら)</p> <p>「明星」(1900 文芸雑誌 与野野野、晶子、啄木、高村光太郎ら)</p> | <p>F</p> <p><u>民党と政府の妥協結束</u> (最初の政党内閣「隈板内閣」の誕生、資本家・労働者の政党の誕生 (立憲政友会・社会民主党))</p> <ul style="list-style-type: none"> ②伊藤-板垣入閣 ②松方-大隈入閣 ③伊藤-憲政友会結成 隈板内閣-最初の政党内閣 (憲政友会) 1898 尾崎行雄の共和演説で倒閣 ②山県-文官任用令改正・文官分限令・1900 治安警察法・選挙法改正・軍部大臣現役武官制 ※立憲政友会結成 (伊藤-幸徳は万朝報で「自由党を祭る文」発表) ④伊藤-社会民主党結成 ①桂 -日英同盟 1902・日露戦争へ |
| 1904-05 日露戦争 (ポーツランド条約…①桂、小村) | | |
| <p>G</p> <p><u>第2次産業革命 (重工業部門)</u></p> <p>八幡製鉄所の大拡張・日本製鋼所</p> <p>鉄道国有法 1906 (以後官営>民営)</p> <p>資本の海外輸出始まる</p> <p>南满州鉄道KK (関東都督府) 1906</p> <p>日韓併合条約 (朝鮮総督府) 1910</p> <p>「黄禍論」おこる</p> <p>関税自主権の回復 (新日米通商航海条約) 1911</p> <p>→資本主義化のスタート早まる</p> <p>独占資本の発展</p> <p>三井・三菱・住友・安田</p> <p>三井合名設立 (最初の財閥)</p> <p>寄生地主制の発展-「土」</p> <p>戦後恐慌</p> | <p>H</p> <p>日比谷焼打ち事件 (第1次桂一倒閣) 1905</p> <p>最初の「合法的」社会主義政党誕生 (日本社会党)</p> <p>大逆事件 1910→労働運動は「冬の時代」へ</p> <p>戊申詔書</p> <p>工場法制定 (1911年一施行は1916年)</p> <p>友愛会 (鈴木文治 労使協調組合)</p> <p>青鞞社 (平塚雪鳥 「青鞞」)</p> | <p>I</p> <p><u>権閥時代→第1次護憲運動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ①桂 -日露戦争・日比谷焼打ち事件 桂・タフト協定 1905 ①西園寺-日本社会党・鉄道国有法・南满州鉄道株式会社 ②桂 -日韓併合条約・大逆事件・(新)日米通商航海条約 (関税自主権の回復=条約改正なる)・戊申詔書・工場法制定 ②西園寺-友愛会・明治天皇没・陸相上原の権傾上奏・中国に辛亥革命 1911 ③桂 -第1次護憲運動 (大正の政変) 山本権兵衛 -軍部大臣現役武官制廃止・シヤンス事件 |
| 1914-19 第1次世界大戦 (ベルサイユ条約…②大隈、西園寺) | | |
| <p>J</p> <p><u>資本主義の空前の繁栄 (1914最大の工業国に成長突出)</u></p> <p>工業生産高>農業生産高 1918</p> <p>入超→出超国に 1919</p> <p>債権国-債権国に</p> <p>火力>水力、電力>蒸気力</p> <p>海運業は世界第3位に</p> <p>独占資本の完成 (三菱、コングレスを形成)</p> <p>資本の輸出</p> <p>対華 21か条要求 (袁世凱政府に) →在華紡の増加・鞍山製鉄所設立</p> <p>寄生地主制の完成</p> <p>戦後恐慌→震災恐慌→金融恐慌→世界大恐慌→昭和恐慌・農業恐慌</p> | <p>K</p> <p><u>労働者の農民支援・学生・被差別階級などおこる階層別の社会運動おこる</u>→この理論的根拠となったのが吉野作造の「民本主義」という革命であった (大正「セリヤ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者…友愛会が次第に戦闘化 (大日本労働総同盟友愛会→日本労働総同盟へ)・資本論の翻訳・日本社会主義同盟結成・日本共産党結成・関東大震災後の大杉染夫妻虐殺事件 ・農民…日本農民組合結成 ・女性…青鞞社の発展→新婦人協会・赤濱会・治安警察法第5条改正(1922) ・学生…黎明会・新人会 ・被差別階級…全国水平社 1922 ・米騒動 1918・最初のメーデー 1920 「女工哀史」(1925 梶井和喜蔵) 「日本改造法案大綱」(1919 北一輝) 「中央公論」「改造」(1919) | <p>L</p> <p><u>大正7年対露通商条約に第2次護憲運動</u> 1915</p> <ul style="list-style-type: none"> ②大隈-第1次世界大戦・対華 21か条要求 工場法施行・民本主義 寺内正毅 -西原借款・石井ツツクノ協定 ②ア 革命→シヤン出兵→米騒動 原敬 -最初の「本格的な」政党内閣 1918-21 ベルサイユ 講和条約→国際連盟・3.1 万歳事件・5.4 運動 選挙法改正・戦後恐慌→最初のメーデー 高橋是清 -ワシントン海軍軍縮会議 1921→加藤友三郎-関東大震災 1923 ②山本 -虎の門事件 清浦奎吾 -第2次護憲運動 1924 ①②加藤高明-護憲三派連立内閣・治安維持法・普通選挙法・日ソ基本条約 1925 |

※明治以降になると内閣別に政策を問う問題が出題される。したがって、まず内閣名を覚えないうちは 何ともならない!

この種の問題は、くだらないが一気に、ガムシャラに、語呂合わせで内閣名を覚えてしまうことだ (その暗記法はある！)

○歴史概観表の見方





次の年号を暗記せよ。

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・戦争 <ul style="list-style-type: none"> 1894 日清戦争開始 (1895 下関条約 ②伊藤→陸奥) 1904 日露戦争開始 (1905 ポーツマス条約 ①桂→小村) 1914 第1次世界大戦 (1919 ヴェルサイユ条約 ②大隈→西園寺) ・資本主義の発展 <ul style="list-style-type: none"> 1890 国産綿糸生産高 > 輸入綿糸 1894 器械製糸生産高 > 座繰製糸生産高 1897 資本主義元年 1906 鉄道の年 (鉄道国有法、南満洲鉄道株式会社) 1911 工場法制定 (→1916 施行) ・労働運動 <ul style="list-style-type: none"> 1897 最初の労働組合誕生 1900 治安警察法 1901 社会民主党 (わが国最初の社会主義政党) 1905 日比谷焼打ち事件 1906 日本社会党 (わが国最初の「合法的」社会主義政党) 1910 大逆事件 (幸徳秋水) 1923 関東大震災 (朝鮮人虐殺事件、甘粕事件) | <ul style="list-style-type: none"> ・議会の動き <ul style="list-style-type: none"> 1898 隈板内閣 (わが国最初の政党内閣) 1912 第1次護憲運動 (③桂) 1918 原敬内閣 (わが国最初の「本格的」政党内閣) 1924 第2次護憲運動 (清浦) 1925 普通選挙法、治安維持法 (加藤高明) ・対外関係 <ul style="list-style-type: none"> 1891 シベリア鉄道起工 (ロシアが南下政策開始) 1894 日英通商航海条約 (治外法権の撤廃) 1899 義和団の乱 (→1901 北京議定書) 1902 日英同盟協約 1910 日韓併合 (朝鮮総督府) 1911 辛亥革命、新日米通商航海条約 (関税自主権の回復) 1917 ロシア革命 (→1918 シベリア出兵、米騒動) 1919 朝鮮で 3.1 万歳事件、中国で 5.4 運動 1920 国際連盟 1921 ワシントン海軍軍縮会議 (4 か国条約、9 か国条約) 1925 日ソ基本条約 |
|---|---|

明治～大正の歴史概観表の中で、特に重要な次の内閣の仕事は覚えるとよい！

| |
|-------------------------------|
| 内閣制度が生まれた時の(初代)内閣総理大臣…第1次伊藤内閣 |
| 明治憲法制定時の内閣総理大臣…黒田内閣 |
| 議会が初めて開かれた時の内閣総理大臣…第1次山県内閣 |

- C…第2次伊藤内閣
- F…第2次山県内閣
- I…第2次桂内閣
- L…原内閣

- 第2次伊藤内閣
- ①元勳内閣
 - ②日清戦争開戦時、講和時(下関条約の締結)の内閣
 - ③日清戦争を前に軍備拡張、租税増徴のための動員を出す
 - ④外相陸奥による条約改正(日清戦争開戦直前に日英通商航海条約を締結し、治外法権の撤廃に成功)

- 第2次山県内閣
- ①文官任用令の改正、文官分限令を公布
 - ②治安警察法
 - ③軍部大臣現役武官制
 - ④選挙法の改正(15円以上→10円以上)
 - ⑤地租増徴(1877年以来2.5%→3.3%)
 - ⑥中国に北清事変(義和団の乱)

- 第2次桂内閣
- ①日韓併合条約
 - ②大逆事件
 - ③新日米通商航海条約を締結し、関税自主権の回復に成功
 - ④工場法制定(施行は1916年の第2次大隈内閣の時)
 - ⑤戊申詔書

- 原内閣
- ①最初の「本格的」な政党内閣(米騒動で倒れた寺内内閣を受けて)
 - ②ガエシヤン講和条約(第1次世界大戦終わる)…朝鮮に3.1独立運動、中国に5.4運動国際連盟発足
 - ③選挙法の改正(10円以上→3円以上)
 - ④高等教育充実政策(大学令、改正高等学校令…義務教育就学率は97%を越す)
 - ⑤戦後恐慌→最初のメーデー

| |
|--------------------|
| 日清戦争開戦時の内閣…第2次伊藤内閣 |
| 日露戦争 " …第1次桂内閣 |
| 第1次世界大戦 " …第2次大隈内閣 |

| | |
|--------------------|----------|
| 最初の政党内閣 | …第1次大隈内閣 |
| 最初の「本格的な」政党内閣…原敬内閣 | |
| 第1次護憲運動の時の内閣 | …第3次桂内閣 |
| 2 " …清浦奎吾内閣 | |

資料 2

○Y君の「明治維新」に関する授業

- ・まず君がスーツ姿で授業に臨んだのには驚くと同時に感動しました。日頃はラフな姿の山内君が授業を前に「暑い！」と言ってネクタイを緩めていたのを目にしました。感動しました。するといきなり机間巡視を始めましたね。これは君たちの授業で初めてでしたね。なかなか堂にいった態度で、先生になりきっていました。「私が今まで見た中で一番好きなパフォーマンスでした。久しぶりに伸び伸びと動きのある授業でした」と友達も書いていました。さらに「スーツを着用しているのに運動靴で、先週教壇の靴音について指摘したことが早速実行されていてよかったです」ともありました。よい授業とは皆の積み重ねで出来上がるということですね。「まずはスーツ姿！！来週の授業で私もスーツを着るつもりだったので“やられた”と思いました。実習の臨場感を出すには、とてもいいアイデアだと思います。…机間巡視も来週の授業で必ずやろうと思っていたので、またまた“やられた”と思いました」（T. H君）

- ・何度も書きますが、学校の現場では今日のように明治維新を1時間でやってしまう、などということはまずありません。なのになぜ僕がこのようなテーマを課したのか？それは長い日本史の中でそれぞれの事件がどのような意味を持っているのか、を大づかみに捉えてほしいからです。それがないと歴史の細かい「路地」に入り込んでしまって、生徒たちにとって何が大切なことなのか、わからなくなってしまふからです。その意味からいえば、授業にもうひとひねりの工夫が必要だった（ただし日本史の基本的な勉強は十分していたことはよくわかりました）。例えば内治優先派と征韓論派の「対立」（政治路線として根本的な対立とは思いませんが）に関する説明はあんなに詳しく時間をかけることはなかったと思います。「実は私は実習の日本史の授業で明治維新をやりました。なのでなつかしかったです。私とは違った理解をしていて私も勉強になりました。ちなみに私は、明治維新の目的は？→近代国家を作る→諸改革、という流れで考えていました。国家の三要素などの話にも触れました。ペリー～開国までで1時間、諸改革に2時間使いました」（Y. N君の指摘でした）」

- ◎「最近すごく勉強してきていて内容が盛り沢山でとても感心します。ただその分スピードが早かったり板書がキチキチになってしまったり、説明を終わらせることに一生懸命になってる先生がいるので、もっとコアにせまった濃い授業も1回聞いてみたいなあと思いました」（同じくY. N君…みごとな指摘！）

- ・要は、江戸時代と明治維新以降とでは、民衆の暮らしが変わったか否か、明治維新で変わったとしたら、どんな所が変わったのか、を明確に指摘することが大切です。

それぞれの単元で何が重要なのか、を手短かに知る方法はないか？
と考えている人が多いのではないのでしょうか。

そのひとつのヒントは「大学入試問題」を見ることです。入試問題には出題者の歴史的事件なりテーマなりに対する考え方が反映しているものです。受験生はこの歴史的事件で何がわかっているか、を考えて問題作成にあたります。入試問題のリード文はあまり長くてはまずいですね。だから大事なことを要領よくまとめなければなりません。こちらの側からすれば、短い文章で歴史的事件のエッセンスを知ることができる、ということです（もちろん時々とんでもない、マニアックな問いに出くわす時もありますが…）。

このことは以前に上智大学の問題を資料にあげた時の感想文にも書いておきましたよさらに生徒たちは大学入試を目指しています。その目的に沿うことも忘れてはならないことだと、僕は考えています。その意味からいっても現場にいったら教師たるもの最新の「大学入試問題」にあたることは必須の条件か、と思っています。

- ・お雇い外国人の給料の高さを現代版にしたのはわかりやすかった。岩倉のチョンマゲ姿が変わっているのに注目させたのは大切！
「石高と家禄の違いは何？」という質問がありました。非常に大切な指摘です。こういう質問から先生が自分の授業で欠けていた点を知ることができるんです（A. F君）「なぜ製糸場を群馬県に作ったのか」という質問もありました（T. Y君）。これも本質的な問いですね。授業のどこかでチラッと触れるとよかったですね。
「授業はととも内容の濃いものでした。この授業を指導していた北山先輩は的確な指導をしていて1年後に自分がこのように指導できたらしいなあと思いました。学祭の間も頑張っていたY君、おつかれ様でした」（S. N君…なかなか温かい感想文でした）
「いやでござんす（1853年）ペリーさん。覚えました！」
（C. M君）

- ・笑顔が素敵だったという感想文が多かった。これは大切ですね。「授業中の先生の笑顔の意味」については前にも書いておきました。ぜひ思い出してください。

- 最近の授業に対して先輩が授業見学に来てくれて、そこで厳しい意見が出されますね。この厳しさは大切です。しかもその指摘は、自分が教育実習の経験で学んだことから出てくる反省からですね。「もっとここをこうやれば」「この意味がよくわからない」「なぜこんな板書になったのか」等々。自分の苦い経験を生かした、後輩にはこんな失敗をしてもらいたくない、という思いが滲み出ています。以前は私が注意していたことが、今や先輩がドンドン指摘してくれています。

絶対に「なんていじわるな」などと思わないように！

それにしても先輩の授業を一度みてみたいものですね。

火曜日の第5限が終わり、外はすでに真っ暗になってしまった、321教室を通りかかったある先生が、大声で議論している君たちを見て、びっくりし、「大きな感動を覚えました」とおっしゃっていました。歴史学科という専門課程のない大学で、歴史的イベントについて声高に議論しているなんていう光景は、そう見られるものではありません。

○感想文A（最近の成績Aは以前と比べてはるかにハードルが高くなっていますよ）…
以下学生名は略

（注）文中に「先輩」という語が出てくるのは、時々4年生が授業を見に来てくれるためです。彼らはすでに教育実習を経験しているのです、そのとき注意されたことを後輩たちに話してくれます。私からの注意より学生たちはよく聞きます。

資料3

○S君の「日清・日露戦争」に関する授業

・今日、私が配付した「明治～大正の歴史概観」表（資料1）を見てください。

明治から大正期にかけて、日本は大きな戦争を3回行いました（日清一日露一第1次世界大戦）。それらがちょうど10年の間隔をおいていたのは、偶然ではありません。戦争と恐慌のメカニズムをまず理解することが大切です。戦争はある個人が、対立する王・皇帝（あるいは国）憎しという感情からおこるものではありません。資本主義という社会制度そのものの矛盾から必然的に起こるものだということをしっかり理解してください。

資本主義社会では会社で作った物をより他社より多く売る必要があります。そのためには自分の会社で作った物が他社のそれよりも安くしないと売れません。どうしたら安くできるか。コストを下げることでですね（他社よりも1つあたりの値段を下げることで）。そのためにはどうしたらよいか。それは賃金を下げることです。賃金を下げると当然、国内購買力も下がります。ではどうしたらよいか。海外へ売りに出すことです。その時対象となったその国が文句を言えない状態であれば、一層売りやすくなります。つまり、その国を「植民地」にしておくことが一番いい方法ですね。

もう一つの方法は購買力を高めるために、つくった商品があつという間に壊れてしまえば資本家にとってもっとも都合がいいですね。それが「戦争をする」ということなんです。大砲の玉や鉄砲の玉は一度打ってしまえばそれまでですね。自分が打った大砲の弾や鉄砲の弾を拾いに行つて、またそれを使おうなどということはできませんから。こうしてまず軍事工場の資本家は自分の工場が儲かるためにどうしたらよいかを考えます。それは当然「戦争」をすることですね。戦争が始まれば一挙に国から戦争のために必要な大砲や鉄砲やら、その他多くの軍需品の注文がきます。その注文に対する支払いは、相手が国ですから「せっかく注文がきたのにお金を払ってもらえなかった」ということはありません。こうして軍需産業は戦争になればどんどん儲かっていきます。とすれば、そこで働いている労働者も多少賃金が上がります。それだけでなく、これまで失業していた人たちも新たに雇ってもらえるかもしれない。こんな状況が続くと彼ら労働者の懐具合も余裕ができてきます。とすれば子どもたちにもおやつを買ってやったり、新しい服も買うことができるようになりますね。かくして軍需産業だけでなくお菓子工場や服飾メーカーも売れる数が増えていきます。このようにして戦争が始まるとあらゆる産業が好景気になっていきます。

・ところが戦争が終わると、当然のことながらまず軍需工場に国から注文がこなくなります。そこで軍需工場の社長さんはこれまで雇いすぎた労働者を減らし（＝首切り）賃金カットをするようになります。仕事がなくなった労働者は家族にアメなどのお菓子をこれまでのように買っ

てやることができなくなります。新しい服も買ってやれなくなりますね。こうしてさっき書いたこととまったく逆のことがおこり、急速に不景気になります。この状態を「戦後恐慌」というのです。

こんな世の中になれば、戦争の時の好景気を目指して、世の中は「なんとかしてどこかで戦争が始まらないか、あるいは始まらなければこちらから戦争をおこすことはできないだろうか」と考えます。こうして戦争というのは繰り返して起こされてきたのです。この一連のサイクルが当時はちょうど「10年」だったのです。

○さてこのことを理解したらそういう観点で明治～大正の時代を見てみましょう。

明治～大正の時代を日清－日露－第1次世界大戦で区切って、その時代をさらに資本家の動き（表でいうA－D－G－Jの枠）、労働者の動き（それは社会運動の動きと言い換えてもよい。表でいうB－E－H－Kの枠）、時の政治を司っている議会の動き（表でいうC－F－I－Lの枠）に分けてまとめてみると、わかりやすく見えてきませんか。私が授業で説明したキーワードを考えながら時代の進み具合を見ていってください。入試などではこの表が生徒たちの頭に、時代の大枠として入っていないとまったく整理がつかなくなってしまう、なにもかも意味もわからずにむやみに暗記するといった、大変不合理（非効率的な）な勉強法をせざるを得なくなります。

資料1の表をじっくり読んでください。

○本日の授業でいうと、この資本家の動き（＝資本主義の発達）の枠（A－D－G－J）を紡績業（つまり綿糸をどうやって生産したか）と製糸業（つまり生糸をどうやって生産したか）に重点をおいて見てみようとなったわけですね。この切り口はなかなかよかったと思います。

○さらに戦争が始まるきっかけは上記のことだけでなく、当時の国際関係のバランスが問題になります。なぜ日本と清との戦争だったのか、なぜ日本とロシアの戦いが始まってしまったのか、ということに対してはそれぞれの国が置かれた民主主義の発達度も関係してきます。これについても一枚のプリント（略）を配付しておきました。よく読んでください。

○さて今日のS君の授業についてです。

もう少し個々の歴史的事項を理解しなくてはなりません。

なによりも日清・日露戦争をきっかけに日本の資本主義はどう変化したかを構造的にとらえて（自分がしっかり内容に納得した理解を示し）授業すべきだった。すくなくともこれまでに授業してきた友達の反省の上にならって、そのことを踏まえた上での授業をしてほしかった。あれほど何回も授業の内容については覚えて教壇に立つこと、といいましたよね。そのことについてどれだけ努力がはらわれたのでしょうか。

「なぜ器械という字が書かれるのか、君は疑問に思いませんでしたか」「鉄→鉄鋼→工作機械」とはどんなことなのか、君は疑問を持ちま

せんでしたか」「飛ヒなるものが紡績の段階のどの時点で、どんな役目をもつのか、君は疑問を持ちませんでしたか」持たなかったのなら君はわかっていたのだから、いくつかの質問には答えられたはず。答えられなかったのならそれをそのままほっておいたとしか考えられません。

授業中に教壇で本を読んで調べているなんてことは、もし本番ならものすごく恥ずかしいことですよ。教育実習は相手あつてのことなんです。生徒の側からすれば教育権を奪われている、ということにもなるのです。「君はこの単元を勉強していて、なぜ鉄道業が教科書に書かれているのか、疑問を持たなかったのですか。鉄道業は軽工業なのか、重工業なのか、その単元の中にいきなりなぜ登場するのか、ちょっと考えれば疑問になるはずですよ。『貨幣法』とはどんな法律なのか、君自身調べていて納得したのですか。

生徒の前で授業をする、ということはそういうことなんです。私たち教師は生徒の前では言い訳はきかないのです。もう少し勉強すべきでした。

・板書に先生が一生懸命。生徒は何もわからずに先生の書いた黒板の字をただひたすらに写している。教室全体がシーンとして何とも言えない空気になる。そんな授業については何度も口を酸っぱくして注意してきたはずです。

それに5分以上延長しましたね。さいわいこの教室はチャイムがなかったからよかったものの、普通では生徒たちは机の上のものをかたづけ始めて、授業どころではなくなります。指導案に書かれている内容の量の問題、そして君の練習量の問題ですね。

・資料は黒板に貼ったものは本当に心配りのされたきれいなものでした。これは皆も見習わなければなりません。

○感想文Aの人…学生名は略